

2023,9 日本の稲作を守る会 NPO法人民間稲作研究所便り

8月のお米は有機栽培 白・玄米コシヒカリをお送りします。
生産者は五十畑 匠さん（栃木県栃木市）
今回は9月2日（土）配送予定です。
御都合の悪い方ご連絡くだされば対応いたします。

市民集会 In 京都『ゲノム編集魚を考える』オンライン参加へのお誘い

今、ゲノム編集によって遺伝子操作された食品が、日本だけで流通し、私たちの食卓に登場しています。しかも、国内で流通している3種類のゲノム編集食品のうち2種類は魚（マダイとトラフグ）です。今まで遺伝子組み換えで改造した魚は、日本でも食品として流通したことはありません。ゲノム編集食品は、遺伝子組み換え食品と同様、あるいはそれ以上の危険性を持ちながら、政府は食べて安全かどうかの評価も、表示も必要ないとしています。ゲノム編集魚がもし逃げ出し、生態系に入り込んだら何が起こるのかまったく予測が付きません。この魚を開発し、養殖・販売している京都大学のベンチャー企業リージョナルフィッシュ社は、不安の声や質問などに応えようとせず、危険性を軽視しています。

養殖場があるのは日本三景の一つ、天橋立があり、豊かな漁場で沢山の美味しい地魚が獲れる京都府宮津市です。こともあろうか宮津市は、ゲノム編集トラフグを「ふるさと納税返礼品」に採用しました。それに対して地元の市民が取り消しを求めているにもかかわらず、市は聞く耳を持ちません。リージョナルフィッシュ社はまた、回転すし「スシロー」を傘下に持つフード&ライフ・カンパニーズと共同でゲノム編集の開発を進めており、外食での使用も視野に置いています。さらには、NTTと陸上養殖の合併会社を設立、全国各地に陸上養殖施設を新設しようとしています。しかも表示はなく、私たち消費者に選択権はありません。

私たちは、リージョナルフィッシュ社に対してゲノム編集魚の開発・養殖の中止を求め、宮津市にふるさと納税の返礼品からの取り下げを求めています。さらに、漁業関係者とも連携し陸上養殖を中止させたいと考えています。そこで今回、ゲノム編集魚が開発・養殖されている京都での集会を企画しました。未来の食卓を守るため、ぜひこの集会にご参加ください！

本集会につきまして、裏面のポスターにありますようにオンラインでの参加を募っております。多くの方々の参加をお待ちしております。

◆プログラム◆

13:00 開会あいさつ

13:05 第1部 基調講演「ゲノム編集は未来の食卓をどう変えるのか」講師：安田節子

13:50 第2部 トークセッション「ゲノム編集魚の何が問題か」天笠啓祐 河田昌東

14:35 第3部 パネルディスカッション「ふるさと納税返礼品にゲノム編集トラフグ」

パネリスト：印鑰智哉 松平尚也 NOGO

15:10 質疑応答

15:40 漁業者からのアピール
15:55 閉会あいさつ
16:00 終了

ゲノム編集魚について考える 市民集会IN京都

～私たちの未来の食卓はどうなるの?～

オンライン参加（栃木） 民間稲作研究所 サテライト会場OPEN!

- 詳しくは集会チラシ、Websiteをご覧ください!
- 定員30名先着順・駐車スペース 30台
- 保育等受け入れはございませんのでご了承ください。

民間稲作研究所有機農業技術支援センター(附属農場) 2F
〒329-0529 栃木県河内郡上三川町上三川下神主 2 3 3 - 1

参加費

¥500

主催：民間稲作研究所
問合せ：0285-37-7366
080-6586-2693(國母)
メール：info@inasaku.org

OPEN TIME
13:00～16:00
開場12:30～



9.23
Saturday



進歩（成長）ではなく進化（展開）を考えよう

日本の生化学の先学のお一人である中村桂子さん（1936年生まれ）が、表題のことについて述べております。一部編集して紹介します。進歩とは「よい（望ましい）方に次第に進んでいくこととあるが、ここで重要なのはよい方向とは何かです。今の科学技術は便利で自然離れをよしとしていますから、「効率」「量」「均一」などをキーワードとし、たった一つの価値観しかありません。CDPはその最たる指標であり、直線的な表現と言えます。これに対して、進化とは展開の意味があり面的な表現です。そのキーワードは「過程」「質」「多様」などで、前述の進化とは大きく異なっています。

進歩はみんなで1つの階段を登っていく競争なので、上の方に到達した人が優れていることになります。一方、進化には様々な選択肢があり、生き方が違うのでどちらが優れているかを比べても意味がありません。それぞれがそれぞれの道を歩んでいるがバラバラではなく、どこかでつながっています。地球上には他の生き物と無関係なものは存在しません。お互い関係し合いながら多様化することで、全体として存続している。これが生態系です。

※スペースの関係で舌足らずの記述になっています。引用した中村圭子『科学はこのままでいいのかな』筑摩書房（2022年9月）は、B5版122ページの小さな本ですので、ぜひとも原本を呼んでくださることをお勧めします。中身は濃いですが表現は平易です。（文責：斎藤一治）